



新宿小だより

学校教育目標

やさしく

かしこく

たくましく

5月の生活目標：学習や生活のきまりを守ろう 児童数560名 令和8年5月号

＋１の行動ができる児童の育成 ～ありがとうが自信に～

校長 横田 亜希子

新緑が映える美しい季節となりました。学年が変わり、教室が変わり、クラスの仲間が変わり、担任が変わり、この一か月は子供たちにとって、とても刺激的で期待に満ちた日々だったことでしょう。ここからはこの新しい環境が日常となります。緊張から解き放たれ、少し疲れも出てくる時期でもあります。

目指す学校像「一人一人が輝き、ともに伸びゆく学校」を実現するためには、まず、子供たちにとって学校が安心できる場所であってはなりません。学校はどの子も認め、受け入れられていると感じられる場所であることが不可欠です。友達との関わり方から学級の雰囲気づくり、当番や係といった役割分担等、学校では様々な工夫をして子供たちの居場所づくりを進めています。

しかし、果たしてそれらの工夫が本当に子供たちの心を十分に満たしてくれるのかと考えると、いささか疑問が残ります。子供たちに限らず、人は「誰かに必要とされている」「誰かの役にたっている」と実感してこそ、他者とのつながりの中で、自分の居場所を確信するという自己有用感が醸成されます。将来、社会に貢献できる大人になるために、小学校段階ではその礎を築きたいものです。

今年度は、決められたことややるべきことにはきちんと取り組むことができる本校の子供たちに「＋１（プラスワン）」の主体的な行動を呼びかけています。指示されたことに加え、あとひとつ、自分に何ができるのかを考えて実行する。そしてそれが認められ、他者から投げかけられた「ありがとう」の言葉が、自信につながり、自己有用感を高め、ひいては学校は自分の居場所であると確信することができるでしょう。

＋１の行動ができる児童の育成 ～「ありがとう」が自信に～

今年度の重点目標として取り組んでまいります。ご家庭でも子供たちの主体的な思考と行動を支えていただけるよう、ご協力よろしくお願いいたします。

